

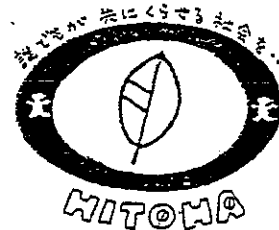
2015年(H27年)

12月

No. 292

# ひとはろうしん

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com>  
(メールアドレス) [honbu@hitoha-fukushi.com](mailto:honbu@hitoha-fukushi.com)



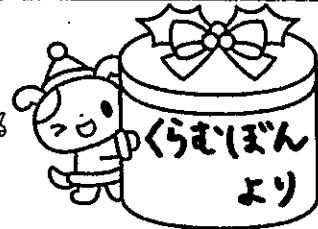
社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL (0826) 46-2960 FAX (0826) 46-7230

- 秋も深まってきました。ひとはのまわりには、どんぐりの木やカエデなど
  - 落ち葉を降らせる木々がたくさんあります。もう少しで木々も丸裸になる
  - と思いますが、それまでは、日課として落ち葉集めも楽しんでいきます。
  - 今日、ホームの人たちが家族や職員の手を借りて手づくりした
  - 「なかよし広場」の落ち葉集めをしていましたら、ステージのテーブルの上
  - にかわいい料理がのっていました。どんぐりの実をはじめ、色とりどりの
  - 落ち葉や小さな枝木が見事に食欲を誘ってくれます。
  - 近所の子どもたちが、ひとは館に立ち寄り、くださった子どもたち
  - かはわかりませんが、うまいもんだと感心しきりです。周囲の落ち
  - 葉はそれなりに掃いてしまったのですが、この料理はもったいなく
  - てそのままに。そのうち風さんがどこかに運んでくれるでしょうから、
  - それまでは待つことにします。
  - せ。かく力を合わせて手づくりした「なかよし広場」です。いろんな
  - 人たちが、いろんな形で使っていたらいいなということを実感した
  - したいです。
  - 落ち葉は、木々が丸裸になるまで集めておいて、焼き芋でも
  - 楽しめればよいなあと考えています。
- (理事長 寺尾 文尚)



## 交通ミュージアムにお出かけしました

11月14日土曜日、くらまぼんの活動で又マラ交通ミュージアム(元交通科学館)へ行ってきました。今回は、公共交通機関を利用する経験も兼ねて、片道だけ路線バス〜JR〜アストラムラインと乗り継いで目的地を目指しました。

土地柄、公共交通機関を利用することがほとんどない子どもたちです。小学3年生のMさんにとっては、すべてが新鮮な経験。緊張しながらも目はきらきらと輝いていました。小学5年生のS君は、この日をずいぶん前から楽しみにしており、地図と時刻表を持参するほどの気合の入れっぶり。小学4年生のO君は、移動時間の長さを見越して、過ごし方を考えて準備してきていました。天気はあいにくの雨でしたが、普段の活動では見られたい新鮮な表情をたくさん見ることができました。

帰りの道中では、みんな疲れ果て静かな車内。充実した一日を過ごすことができました。(くらまぼん 白井 くみこ)

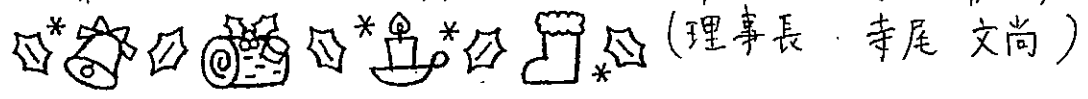
## 行事予定

- 16(水) トールポイント教室(ささき亭)
- 20(日) ひとは館 マルシェ(ひとは館)
- 26(土) シロイハコ販売 アロマセラピー教室(ささき亭)

## 年末年始休暇

### のおしらせ

ささき亭 12/27(日) ~ 1/4(月)  
ひとは館 12/28(月) ~ 1/4(月)



# ひとばのママ

私には、寒くなるとよく着る服があります。なぜかこの服を着ると、仲間からよく声をかけられます。

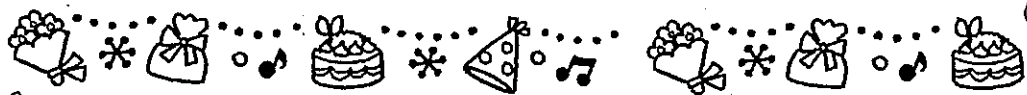
「どこで買ったの?」「か、こいいね。」

Aさんは、違う服を着ると服をひっぱります。

「いつもの服がいい?」と聞くと「うん」とうなずかれます。「明日着てくるね」と言うと、安心した表情になります。

だんだん寒くなり、その服を着る時期になりました。今年もどんな出会いがあるのか楽しみです。

(作業所 かすみそう 関内宣子)



ある日の事、ホームの談話コーナーでギターを弾いていると、Aさんは曲に合わせて歌い、Bさんは自分なりに踊り、Cさんは椅子に

座り聴いていました。だんだんと盛り上がり、曲の最後にみんな

で集まって、Aさんの「せーの」のかけ声でジャンプ。また、曲と曲の間

に「ひとばー、元気ですか?」と聞くと「おー!」と返事。

最後の曲を終えると「アンコール! それ、アンコール!」(やらせですが...)

ホームの談話コーナーがライブ会場になります。名付けて

「ひとばアリーナ」

(共同ホーム 松本拓也)



先月号「ひとばから吹いてくる風」のコーナーで、寄稿者のお名前を「若月哲枝」と表記していましたが、正しくは「若月哲枝」でした。おわびして訂正します。

## ひとばから吹いてくる風

～30年によせて～

「ゆたらかにひとばは25周年によせて」が発行されてちょうど5年が経ちました。127ページをみると、本の重さと内容の深さに呻ってしまいます。その時の編集に関わった私としては、これ以上の記念誌を発行することはもうないだろうと思い、つづ30周年を迎えました。

今年3月、寺尾さんから読んでみて感想をさかせてくれえや」と渡された表紙に「職員の得」と書かれたA4コピー紙25枚綴り。読んでみると「生活の中に潜んでいる支援の極意」が寺尾さんたちの言葉でまとめられ書かれました。感想をさかかれ答える言葉がなまなま1ヶ月が過ぎました。4月、何とかこれをみんなで見られるものにして、編集委員5人が意見を出し合いました。そして8ヶ月後「ひとば」と表題を交え完成しました。

今年「ひとば」30周年という節目の年です。ゆたらかに「かっかひとば」のバイブルだしたら、ひとばは「ひとば」の知恵袋でもいえるでしょう。さあ、ひとばは私たち一人ひとりがこれをどう生かしていくかが問われます。(伊藤千代子)

「おいしかったー。ちょっと残したけどね。」玄関で靴をはきながら、5才

くらいの男の子が感想を言ってくれました。「ひとば館によく来ていて、ここを聞

いて来たんですよ。」と御両親が教えてくださいます。

そういえば、夏に来られた5才くらいの男の子は「どこから来たの?」と聞くと「市内

から」と答えてくれて、お母さんが「市内から?」なんて言えるんだ。」と驚きながら

喜ばれていました。「初めて来てくださいましたか?」と聞いてみると「ずいぶん前に

1回。ほおずきをもらいました。」と言われます。記憶のページをどんどんめくと、

思い出しました。1年たって、子どもさんもすっかりお兄ちゃんになっていました。

「今年の新しいほおずき、いる?」と聞くと、うれしそうにうなずいて受け取られ、

「また来年ね〜。」と声をかけると、男の子も「また来年ね〜。」と帰って行かれました。

こんなかわいいやりとりが、とても楽しみです。

「ひとば」発行

「ひとば」の目次

